

安定した暮らしを続けるために

高島第一中学校 9 年

樋 口 彩 芽

私が小学五年生のときだった。新型コロナウイルス感染症が爆発的に流行した。前年度のように休校にはならなかったが、予防として自宅待機を選択する生徒も多く、私もその一人だった。先生や友だちに会えない。この状況下での私の心の拠り所は、「オンライン授業」だった。

令和三年度、全国の公立小中学校の生徒に「一人一台端末」が整備された。これによって、自宅にしながら、端末を介し、学校の授業を受けることが可能になった。登校している友だちの声や姿が確認できたり、自宅にいるクラスメイトとチャットを通して繋がれたりしたことで、学校との関わりが途切れずに過ごせた。そのおかげで、その後、学校生活に安心して戻ることが出来た。

このとき、「税金が自分のために使われている」と、初めて実感した。

では、どのような形で税金が使われ、これが実現されたのだろうか。具体的に調べてみた。

そもそも、感染症流行以前から、「G I G A スクール構想」という事業があった。これには、学校 I C T 環境を整備し、活用することで、教育の質を向上する目的がある。一人一台端末は、これに基づく制度である。私が暮らす板橋区では、高速大容量通信ネットワークの整備といった取り組みも行っている。

板橋区教育委員会による「令和七年度教育予算の概要」では、「G I G A スクール構想の推進」について、およそ二十億円を予算としていた。これは、教育予算全体の六パーセントにあたる。その他の項目でも、I C T 機器に関する内容が含まれていた。

また、国から自治体に対し、端末購入費用として、一台あたり四、五万円を上限とし、補助している。補助金の財源も、税金であるため、ここでも税金と事業は、密接に関わっている。

このように、この事業ひとつ切り取っても、複数の面から税金の支えがあることが分かる。生徒が等しく、充実した I C T 環境が得られているのは、「税」という仕組みの恩恵があってこそである。

G I G A スクール構想は、もともと、令和五年度までの計画だった。しかし、感染症により、学校が休校になったことを受け、令和二年度までに早まった。災害、環境問題、人が起こす事件、世の中はいつだって不安定だ。その度に、誰もが等しく守られ、安定した暮らしを継続出来ることは、平和な社会を保つ上で必要なことである。税の仕組みが、これを支えているのだと、再確認出来た。

私のあの経験は、安定した社会を国民みんなでつくってきたから成り立っている。そう思うと、嬉しかった。だからこそ、私も社会の一員として、将来を担っていくために、今与えられている環境を最大限活かして、多様な考え方を身に付けていきたい。